

社会福祉法人 村山苑 ひよし保育園

福祉サービス第三者評価 利用者調査への
ご協力ありがとうございました。
結果をご報告します!!!



◆利用者調査実施概要

項目	データ	備考
利用者人数	80	令和7年10月1日現在
利用世帯数(a)	66	調査票は1世帯1票で配付
調査票配付世帯数(b)	66	-
有効回答数(世帯)(c)	49	-
回収率(c/a)	74.2%	利用世帯数に対する回答者割合(都規程による)

◆評価機関

(株)地域計画連合 福祉サービス評価室 (東京都評価機関認証番号: 機構02-002)
東京都豊島区北大塚二丁目24番5号 ステーションフロントタワー2F
問合せ: 03-5974-2022 hyoka@rpi-h.co.jp

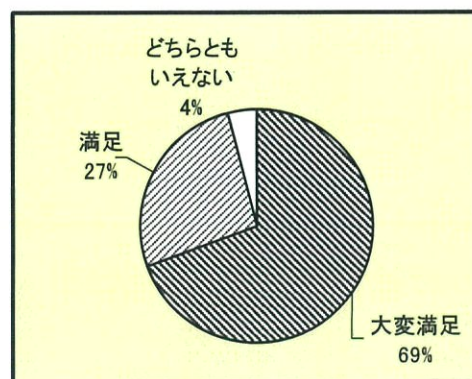
◆利用者調査結果概要

●利用者総合満足度

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、

はいの割合	はいの人数
96 %	47 人

となっている。



●各設問のうち、「はい」の比率が高かった項目

	はいの割合	はいの人数
問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか	100 %	49 人
問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか	98 %	48 人
問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか	96 %	47 人

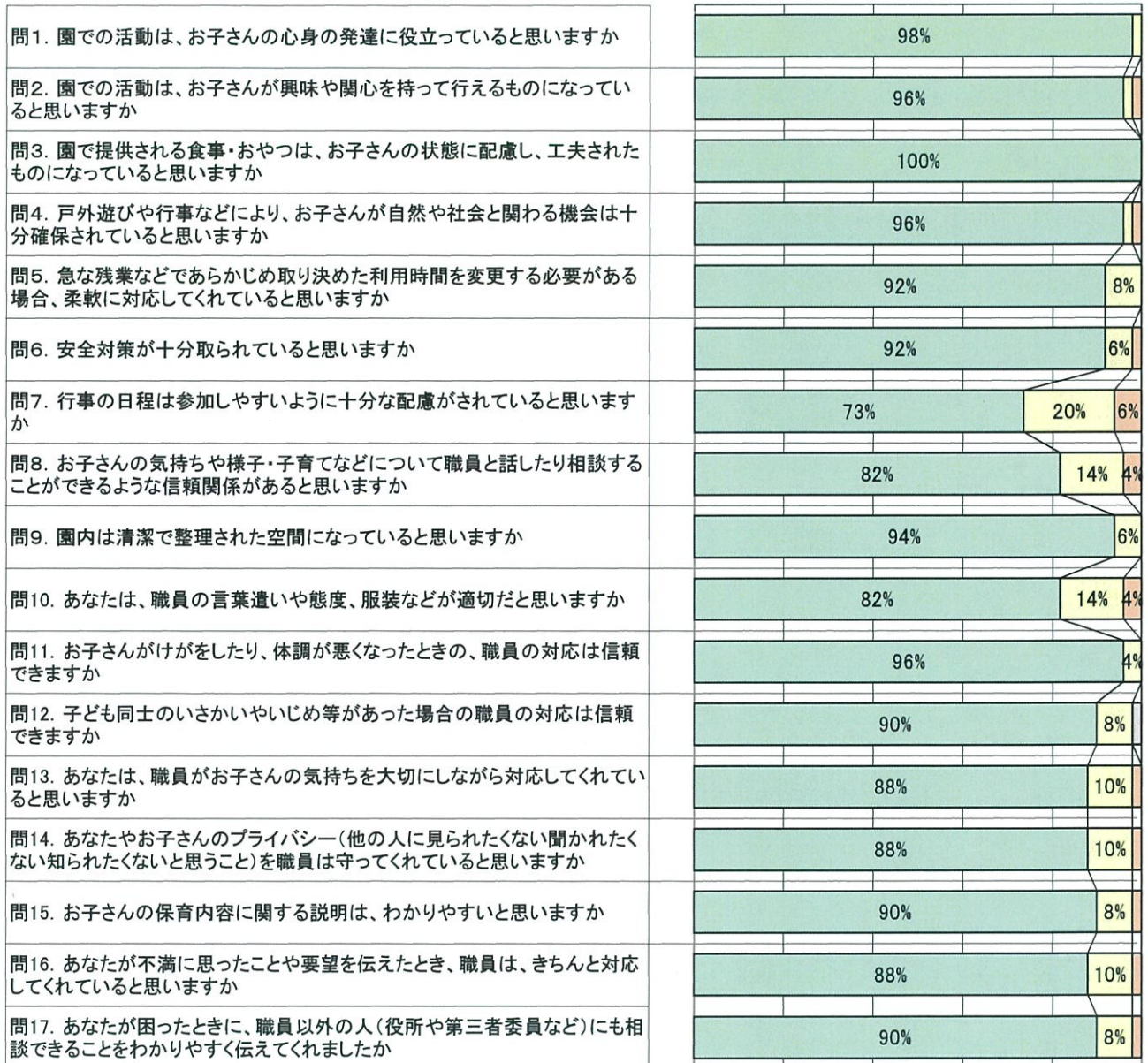
◆利用者調査結果

※グラフの見やすさを考慮し、2%以下は表示していません

回答者総数：49

□はい □どちらともいえない □いいえ □無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%



(注)グラフの構成比は小数点第1桁目を四捨五入して表示しています。そのため、構成比の合計が100%にならない場合もあります。

園長より利用者みなさまへ

お忙しい中、アンケートのご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。

第三者評価で頂いたご意見は、保育園をより良くするための貴重なご意見と受け止めさせて頂き、今後の保育の向上とお子様を安心して頂ける保育園づくりに努力してまいります。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの主体性を大切にした保育の実施に向けて、乳幼児期の育ちを大切に考え、職員間で共通認識を持って取り組んでいる
	内容	乳児期から子どもの表情を読み取り気持ちを代弁する、言葉の表出が始まった年齢の子どもには、根気よく意思を確認するなどして、子どもの気持ちを大切にしたい愛着形成に努めている。日々の保育や行事に関わる計画において、保育者は、子ども同士の会話の中からやりたい気持ちを引き出し、提案したことを最後までやり遂げる大切さも経験させて、自ら成長していく力を発揮できるように援助している。行事や散歩などの一斉保育に参加したくない子どもの気持ちも認め、子どもが自らやりたいことを待ち、模索して寄り添った対応を心がけている。
2	タイトル	保育士、看護師、栄養士が協働して、園生活の中で身に付けて行きたい生活習慣の確立や多様性の理解に向けた指導を計画的に実施している
	内容	子どもを中心にした保育の中で、さまざまな経験を通して将来への基礎となる生活習慣や多文化理解、自らの身を守る術などを学び、楽しみながら知識を蓄え実践を通して学びを深めていけるように、リスク、食育などの委員を決め、保育士、看護師、栄養士が専門性を活かし協働して取り組んでいる。職員や子どもが提案した内容を子どもの生活に反映させるにはどのような方法が効果的かなどを検討し実行している。子どもも見学するプールでの事故発生のシミュレーションでは、職員の対処する姿を見て学び、危険予知訓練の役目も果たす機会も大切にしている。
3	タイトル	チェックリストの活用や研修での学びを通じ、職員間の相互理解を促進し、不適切保育の防止を徹底している
	内容	虐待の根絶を掲げる法人の方針の下、当園は良好な職員関係性のある風通しの良い職場作りに取り組んでいる。虐待防止の内部研修を実施しており、今年度の研修では「私のトリセツ」「お助けアクション」などのコミュニケーションツールを作成し、相互理解を深めた。全職員が法人の虐待防止ブック及び全国保育士会のチェックリストを用いて、定期的に日常の保育を振り返る機会を持ち、会議等の場でお互いの言動をチェックしている。このような取り組みは子どもたちの「やってみたい」意思を尊重する保育方針とも適合し、虐待発生のリスクが軽減されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者同士が子どもと共に楽しみ思い出に残る園生活を送るために、園ができること、保護者が望むことの接点を導き出す方法を検討されたい
	内容	保護者懇談会では、子どものエピソードなど共通の話題を提供して雑談をする時間を設けている。保護者が交流する行事については、保護者からは親子で一緒に遊ぶ場の提供などの要望も寄せられている。保護者の職場環境や子育て観、価値観が多様化する中で、職場以外の集団の中で子どもへの想いを語り合える場など、保護者がどのような方法を望んでいるか、行事を園主体、保護者主体のどちらにするのかも含め意見の集約が必要と考える。卒園した後も親子ともども楽しかったと思いつく経験が、近隣の人にも薦められる園となっていく一因でもあると考える。
2	タイトル	ICT化の推進や中間層のスーパーバイズ力の向上を通じて、これまで以上に働きやすい職場づくりが進むことを期待したい
	内容	法人の業務のICT化推進の方針の下、当園ではICTシステムが導入され、多くの紙ベースの書類が電子媒体として扱われることとなり、残業時間の減少など職員の業務負担の軽減につながった。当園としては「働きやすい職場宣言」の準備に着手しており、更なるICT化の推進や公休数の増加などの職場環境の整備に取り組む予定である。人間関係が良く、風通しの良い職場であるが、中間層のスーパーバイズ力の向上を通じて若手職員一人ひとりに随時適切なアドバイスを送り、これまで以上に働きやすい職場づくりが進むことを期待したい。
3	タイトル	地域貢献の推進のため、地域を巻き込んだ保育の実践を通じ、地域とのさらなる関係強化について検討されたい
	内容	地域子育ての発信基地を理念の一つとして地域の方に開かれた保育園を目指しているため、園庭開放・水遊び・誕生会参加、七夕、わらべうたなどに地域の子どもを招き、交流を行っている。さらに、中学生の職場体験の受け入れ、小学校の町探検などのプログラムに協力し、地域の子どもを受け入れている。子どもの生きる力を高めるため、さらなる地域資源の活用についても検討されたい。例えば、協力してくれる近隣の店を探し、こどもが保育者とともに町に出ていき、お店で食材を買ったり、店員とやりとりしたりといった活動の実践も一案である。